

令和5年度 あさがお福祉会事業報告書(案)

1. 第1種社会福祉事業

①軽費老人ホームの経営

ケアハウスあさがお 定員50名

②地域密着型介護老人福祉施設の経営(令和2年4月開所)

かごやライフ 定員29名

③母子生活支援施設の運営

TSUBAME 定員20世帯(令和5年8月開所)

2. 第2種社会福祉事業

①老人居宅介護等事業の経営

ホームヘルパーステーションあさがお

②認知証対応型老人共同生活援助事業の経営

グループホームあさがお 定員18名

③老人デイサービスセンターの経営

つだまちキッチン 定員25名(平成29年2月増改築・増員)

④小規模多機能型居宅介護の経営

小規模多機能型居宅介護あさがお 定員29名

⑤障がい児通所支援事業の経営

つだまちキッズ 定員10名

つだまちスマイルキッズ 定員10名(令和1年10月開所)

⑥幼保連携型認定こども園の設置経営

みつぼしこどもえん 定員90名

⑦障がい者共同生活介護の設置経営(平成29年4月開所)

つだまちリビング 定員5名

つだまちリビング2リバーエッジ 定員4名(令和2年4月開所)

⑧短期入所生活介護事業の設置経営(平成29年9月開所)

かごやリゾート 定員20名

⑨放課後児童健全育成事業

あさがお学童保育クラブ 定員40名(平成30年4月開所)

⑩障がい者就労継続支援B型

TSUDA-MACHI Works 定員20名(令和6年6月開所予定)

焼き鳥とおばんざいの店ー平ちゃん

3. 公益事業

①居宅介護支援事業所の経営

ケアネットあさがお

②サービス付き高齢者住宅の経営

シニア向け長屋住宅あさがお邸(定員18名)

③高齢者有料老人ホームの経営

かごやステイ(定員10名)

4. 徳島市委託事業

配食サービス事業の経営

配食サービスセンターあさがお

5. 居住支援法人事業(令和6年4月開所予定)

6. その他の事業

①コミュニティカフェの経営

茶房うてび庵

②ユニバーサルカフェの経営

つだまちキッチン(令和6年5月に就労継続支援B型へ移行)

③こどもの居場所づくり事業の運営

The Third Place の運営(令和3年4月開始)

④地域福祉相談窓口の運営

ふくしの窓口(令和5年10月開始)

事業方針： 令和5年度

「共存・共鳴」

「あさがお福祉会の SDGs と今後10年10の目標」

○法人全体事業報告

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類になり、各事業所での規制は緩和されたものの、介護事業においては度重なるクラスターによるユニット閉鎖など多大な影響があった。保育事業及び児童障害事業に関しては前年度以上の収益を確保することができ、改めて制度の先読みをした事業の多角化多機能化が功を奏した。

また、昨年8月には徳島県では初の母子生活支援施設を開所し、母子に関わる支援体制を構築。同年10月にはふくしの窓口を設置し、いかなる相談にも対応できる地域福祉環境整備に尽力した。我々福祉業界はデジタル AI ではなく AI(アーキテクチャルイノベーション:新たな謎解き方法)の発想を持った人材育成に取り組まなければならない。社会課題が複雑化するなか、我々も柔軟に対応できるよう、引き続きスタッフ一同尽力する所存です。

① 既存事業及びサービスの見直し

本年度はコロナ対策一色となり、既存サービス内容の見直しは十分ではなかった。しかし、次年度に向け、良質なサービスを提供する現場のスタッフ育成に注力できるよう、研修体制の見直しやシステム構築に向けた準備期間としての年であった。

② 法人のブランディングの徹底

本年度は広報に力を入れ、年間レポートとパンフレットを纏めた冊子を作製した。今までの取組や年間の出来事などを可視化し、学生からご利用者のご家族が見ても内容が分かる冊子づくりに努めた。見られた方から好評をいただき、法人の価値が高まった。

③ NewBusiness の開発

本年度は、母子生活支援施設を8月に、ふくしの窓口を10月に開設。令和6年6月には障がい者就労移行支援B型を開設する予定。

④ 医療とのパートナーシップ強化

感染拡大防止の観点から、参集型の会議やセミナーは数回に留まったが、各事業所の課題等を話し合う場を設けたことで医療との連携の糸口が確認できた。また、医療法人と連携した運営会議や経営会議を開催し、双方の課題等が確認できた。

⑤ 新たな働き方の提案

本年度はコロナの影響は大きいですが、グループ内でのダブルワークや超過勤務での所得アップを提案した。

⑥ 地域とのより良い関係の構築

新規事業のかごやライフにて、こどもカフェを開設予定であったが、感染防止のため現在は稼

働していない。次年度以降に活動開始をしたい。

⑦ AI・ICT の積極的な導入

リモートにてセミナーや会議が開催されるようになったが、法人内研修等も動画を作成し、スタッフが夜勤帯にて学習できる環境整備をした。

⑧ 他業界との業務連携

全ての事業所において、感染予防対策により外部との接触を断つことになったが、保育においては、東京の映画監督とコラボし、リモートにて遠く離れた東京と徳島をオンラインでプロの俳優による演劇指導をするなどの取り組みをした。

⑨ ふくしを10年後のなりたい仕事 TOP10に UniversalWork の推進

コロナ禍で、こどもとの関りが難しかったが、今年度はかごやライフ内でこどもカフェの運営など福祉を近い存在に感じてもらうことができた。

⑩ 次世代の NewHero の育成

本年度は、やはりコロナの影響により育成は出来ていない。次年度は、あさがお若手スタッフを主軸に、より福祉の魅力ややりがいを伝え、AI ができる次世代のヒーローを育てたい。

○BCP作成及び災害対策

一昨年度を振り返り、自然災害が多かった年でもあることから、災害時に強い法人運営を目指す予定であったが、コロナに対する感染予防対策マニュアルの作成やクラスター発生時の対応策などを策定するに留まった。